遠藤　信一（えんどう　しんいち）

株式会社バンダイナムコスタジオ

作品：DORONKO WANKO

1. ゲームのプランナー（企画職）になろうと思ったのはなぜか

　僕は小さなころから物作りが大好きで、本や映画、歌などいろいろな物を作ってきました。その中でもボードゲームを作って友達に遊んでもらった時、友達が笑い、楽しむ姿を見て「大人になっても自分が考えたゲームでみんなを楽しませたい！」と感じました。なので、ゲームのルールや物語、ステージやボスモンスターを自分で考え出せる、プランナーになろうと思いました。

1. ゲームのプランナー（企画職）になるためには何が必要か

プランナーになるためには「いろんなことを知っていること」が必要だと思います。それはもちろん、ゲーム以外のことについてもです。プランナーには、アイデアが求められます。バトルを楽しくするアイデア、武器をかっこよくするアイデアなど、毎日いろんなアイデアを考えます。そんなアイデアを僕たちがどこから持ってくるかというと、これまで得た知識/経験です。「あの時見た映画が……」「この前行ったキャンプの……」など、アイデアの種はいろんなところに転がっています。ゲームのアイデアをゲームから持ってくることは簡単です。ですが、ゲーム以外のことに触れ、知り、アイデアの種になった時、その種はあなたからしか出ないレアでユニークなアイデアとなるでしょう。そんなアイデアを出すために、「いろんなことを知っていること」が必要だと思います。

1. ゲームのプランナー（企画職）の魅力と楽しさ

プランナーの魅力はなんといっても「自分のアイデアを、お客さんが楽しんでくれること」！自分が考えた遊びで笑ってくれた時、考えた謎に頭を悩ませている時、自分のアイデアがねらい通りにささった時、「よっしゃ！」とテンションがあがります。また、「自分のアイデアが形になること」これも外せません！僕が考えたかっこいい技が、楽しいルールが、強いモンスターが、アーティストさんやプログラマーさん、サウンドクリエイターさんの手によってゲーム内に登場する。この瞬間は、思わず声が出るほど嬉しくなります！

1. 仕事での苦労話

あなたがお友達にプレゼントを渡す時、自分が好きかはともかく、その子が喜ぶものを渡すと思います。ゲームも一緒です。お客さんが喜ぶものを作るためには、時には自分の「好き」を抑える必要があります。ゲームは遊んでくれる人のためのものなので、お客さんを一番に考えてゲームを作っていかなければならない。これはいまだに苦労しています。ただ、「好き」を出せる時にはどんどん出していけますよ！

1. ゲーム業界を目指す小学生に向けたメッセージ

興味があることにどんどんチャレンジしてください！なんでもいいです！例えば「絵具を全部混ぜたら何色になるんだろう？」や「どうやったら水の上を走れるんだろう？」など、いろんなことにチャレンジしてみてください（もちろん怒られることはダメ！）。上手くいってもいかなくても、その経験はいつかアイデアとなって、あなたのゲームをとっても面白くします！皆さんが大きくなって、一緒にゲームを作れる日を楽しみにしています。